

# 「小児の救急外来で 多い家族からの 質問」

**こんなに熱が高くて馬鹿になりませんか？**

なりません。最も小児科外来で多い質問ですが、これはいわゆる迷信です。確かに髄膜炎や脳炎等の中枢神経系の感染症では、神経学的後遺症を残す可能性はありますが、それら以外の疾患（扁桃腺炎、肺炎等）では40度を超えるような高熱がでて、それ自体では神経学的後遺症を残す心配はありません。

**今日かかりつけの先生に診てもらったのですが、座薬を入れても熱がさがりません。もう一度救急外来を受診したほうがいいですか？**

症状や状態に変化がなければ一晩様子をみて良いと思います。小児には比較的弱い解熱剤を使用するのが一般的で、これらは副作用が少ない分効果も弱いため、平熱にまでさがらず、数時間で再び高熱に戻る場合がしばしばあります。強い解熱剤はインフルエンザ等の場合に使用すると脳症を誘発する可能性があり、小児での使用は原則禁止されています。人間の体は熱を出してウイルスや細菌と戦っています。熱は決して悪者ではないのです。

**では実際に、どういうときに救急にかかった方がいいのですか？**

体温計の数字ばかりでなく、お子さんの雰囲気や状態をよくみて判断して下さい。受診された時にご家族が「熱とかはあまりないのですが、なんとなく様子がおかし

熱がすごく高いけど大丈夫かしら？

救急外来はどこを受診したらいいの？



いです」などと言われた時に予想以上に重症なことがあります。逆に「熱は高いですが元気です」と言われた場合は、ほとんどが家で一晩様子をみる事が可能な状況です。いつも一緒に暮らしているご家族の印象は、非常に信頼できるものです。熱の高さよりも、ぐったりしていないか、顔色が悪くないか、息苦しそうではないか等の全体の雰囲気を見てあげましょう。具体的には、けいれんした、顔色が悪い、ぐったりしている、おしっこがでていない、繰り返して吐いている、激しい頭痛・腹痛・胸痛、苦しそうな咳や呼吸、ひどい血便、生後3か月までの赤ちゃんで38度以上の熱がたなどの時は受診をお勧めします。

**もし夜間や休日に救急外来を受診したい場合は、どこを受診したらいいのですか？**

多くの場合は、各自治体で救急案内を行なっています。夜間や休日などに受診を希望される場合は、各自治体の救急案内にてこの病院が受診可能かを聞いてください。ちなみに岐阜市の場合は、地域で

開業していらっしゃる先生方のご協力により、岐阜市民病院にて365日24時間小児の初期診療・救急搬送ともに対応しています。また受診すべきかどうか迷う場合は、**小児救急電話相談** 電話058-240-4199にて電話相談も受け付けておりますので、ご利用下さい。

## 今月の先生



岐阜市民病院 小児科  
**篠田邦大** 先生

- 専門分野  
小児科一般  
小児血液・腫瘍
- 役職  
小児科部長  
小児血液疾患センター長  
救急診療部副部長
- 主な資格、認定  
日本小児科学会専門医  
日本血液学会指導医・専門医  
日本小児血液がん学会暫定指導医  
日本造血細胞移植学会認定医
- 卒業年、主な職歴  
平成6年岐阜大学医学部卒